

アレッサンドロ・クルデーレは、近年イタリアから登場した最も優れた多才な指揮者の一人である。

これまでに指揮したことがあり、または来シーズンに指揮を予定している一流オーケストラには、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、バンベルク交響楽団、ベルリン交響楽団、ボーフム交響楽団、メルボルン交響楽団、モンテカルロ・フィルハーモニー、イスラエル交響楽団、ポルト・カーザ・デ・ムジカ交響楽団、ミナス・ジェライス・フィルハーモニー管弦楽団、FOKプラハ・交響楽団、RTS 交響楽団、ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニー、トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団、ヴェネト・パドヴァ管弦楽団などがある。

2018/2019年シーズンから、アレッサンドロ・クルデーレはベオグラード放送交響楽団（RTS 交響楽団）の首席客演指揮者の地位に就いている。

アレッサンドロ・クルデーレはアジアに頻繁に客演し、マレーシア・フィルハーモニー管弦楽団、上海フィルハーモニー管弦楽団、深圳交響楽団などの主要オーケストラを指揮し、特に香港シンフォニエッタとは2011年のデビュー以来、定期的に交流している。また、日本では2016年にオーケストラ・アンサンブル金沢で目覚ましいデビューを果たした。

2000年、ミラノのUniMi交響楽団の首席指揮者に就任。このオーケストラは彼の指揮の下、わずか数年で大きな評価を得て、パウル・バドゥラ＝スコダ、ナタリー・クライン、イングリット・フリッター、ヴィヴィアン・ハーグナー、マルティン・ヘルムヒェン、アルブレヒト・マイヤー、ゲルハルト・オピッツ、ヴァディム・レーピン、ファジル・サイ、リーリャ・ジルベルシュテインなど著名なソリストと共演している。

最近の活動としては、ベルリンのフィルハーモニー、チューリッヒ・トーンハレ、ライプツィヒ・ゲヴァントハウスでのデビュー、オーケストラ・アンサンブル金沢との日本デビューで成功をおさめたことが挙げられる。

若い音楽家の擁護者であるアレッサンドロ・クルデーレは、キャリアの初期から若いアーティストとの活動に時間を割いており、ユースオーケストラとのコラボレーションは今でも彼の優先事項の一つである。2003年から2006年まで、アレッサンドロはスカラ座アカデミア管弦楽団の定期客演を務め、2014/2015年には、ヨーロッパ各地の優秀な若手音楽家が所属するモンテカルロ国際青年オーケストラを指揮した。

ロッシーニの「ブルスキーノ氏」でオペラデビューを果たし、高い評価を得ている。

レパートリーは17世紀から現代に至るまで多岐にわたる。さらに、フランス印象派の音楽の解釈でも高い評価を得ている。

アレッサンドロ・クルデーレはミラノに生まれた。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でヴァイオリンと作曲を学び、1997年に卒業した。指揮者としての教育は幼少の頃より開始された。1999年から2003年までシエナのキジアーナ音楽院で学び、いくつかの奨学金と最も権威のある「ディプロマ・ドノーレ」を授与された。さらに、クリストフ・フォン・ドホナーニとサー・サイモン・ラトルから指導を受けた。

現在、ベルリンに在住。

